

# H26年度 公の施設目標管理型評価書【指定管理者施設用】

1

施設名	新潟市食と花の交流センター
管理者名	にいがた未来共同事業体 <b>指定期間</b> 平成26年4月1日 ~ 平成30年3月31日
担当課	農林水産部 農業特区・農村都市交流課
所在地	新潟市中央区清五郎336番地
根拠法令	
設置条例	新潟市食と花の交流センター条例
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○敷地面積 約5.7ヘクタール</li> <li>○主な施設 <ul style="list-style-type: none"> <li>・花とみどりの展示場</li> <li>・見本園</li> <li>・情報発信コーナー</li> <li>・直売所</li> <li>・レストラン</li> <li>・多目的広場</li> <li>・駐車場</li> </ul> </li> </ul>

施 設 設 置 目 的
<p>本市が誇る食と花の魅力を市内外に発信し、多くの人にその魅力に触れる機会を提供することにより、食と花の販路の拡大及び農村と都市との間の交流を推進し、もって農林水産業の振興及び市民の豊かな生活の実現に資することを目的とする。</p>
管 理 ・ 運 営 に 関 する 基 本 理 念 ， 方 針 等
<p>1 事業理念</p> <p>(1) 地域農業振興につながる施設 本市の食や花に関する情報発信や地域独自の商品開発、提供などにより地域農業の振興を図る。</p> <p>(2) 市民に愛される食と花の施設 市民に親しまれ、地域農業に対する理解やほこりを感じられる事業を展開する。</p> <p>(3) 本市農業の先導役として、商品開発や食・花を活かしたライフスタイルの提案などを継続的に推進する。</p> <p>2 重点政策</p> <p>(1) 市内外に本市の食と花のプロモーションを展開し、ブランド力を高め、販路の拡大を図る。</p> <p>(2) 食と花の新たな価値の創造及びライフスタイルを提案する新規事業の企画</p> <p>(3) 食と花によるにぎわいの創出及び憩いの空間を提供する。</p> <p>3 管理運営方針</p> <p>(1) 当該業務について善良なる管理者の注意をもって実施する義務を負うものとする。</p> <p>(2) 施設の設置の目的を踏まえて、各施設との適正な一体的な管理によりその効用を最大限発揮させるよう、努力するものとする。</p> <p>(3) 業務全般について計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、その一元的管理方針のもとで、仕様書に示す多岐にわたる業務について適切に進捗管理を行い実施するものとする。</p> <p>(4) 指定管理者は、施設の管理について創意工夫のある企画や効率的な運営等により、各施設利用者の多様なニーズに応え、質の高いサービスの提供を図り、効果的・効率的な管理運営を目指すものとする。</p> <p>(5) 施設利用者や地元等からの要望等に対し、公の施設の管理運営の公益性に鑑み、公平・中立を是としてその運営にあたるものとする。</p>

## 2

施設名	新潟市動物ふれあいセンター		
管理者名	にいがた未来共同事業体	指定期間	平成25年4月1日 ~ 平成30年3月31日
担当課	保健衛生部 保健所環境衛生課		
所在地	新潟市中央区清五郎345番地1		
根拠法令			
設置条例	新潟市動物ふれあいセンター条例		
施設概要	敷地面積 約4,299㎡ 延床面積 709㎡ 建物構造 木造平屋建 主な施設 ・動物飼育棟 ・動物ふれあいハウス ・アルパカ広場 ・ひつじ・やぎ広場 ・ポニー広場 ・ふれあい広場		

施設設置目的	
動物とのふれあいを通じて人と動物との関わりを学ぶ機会を提供することにより、動物愛護の精神を養い、これを普及させ、もって人と動物が共に暮らす社会の実現に寄与することを目的とする。	
管理・運営に関する基本理念、方針等	
1 事業理念	<p>(1) 命の大切さを感じる施設 動物とのふれあいを通して、命の大切さ、やさしい心、思いやりの心を育む。</p> <p>(2) 市民の健康維持と交流の施設 動物とのふれあいは、市民の心にやすらぎや癒しを与え、心身の健康づくりに効果をもたらす。</p> <p>(3) 動物への理解を深め学ぶ施設 動物に関する知識を正しく学び、体験により理解を深め、人と動物が共に生きる社会の実現を目指す。</p>
2 重点政策	<p>(1) 動物の特性及び動物との適切なふれ合い方の情報を提供する。</p> <p>(2) 動物とふれ合う機会を提供する。</p> <p>(3) 保健所が保護した動物の譲渡事業に協力し推進を図る。</p>
3 管理運営方針	<p>(1) 当該業務について善良なる管理者の注意をもって実施する義務を負うものとする。</p> <p>(2) 施設の設置の目的を踏まえて、各施設との適正な一体的な管理によりその効用を最大限発揮させるよう、努力するものとする。</p> <p>(3) 業務全般について計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、その一元的管理方針のもとで、仕様書に示す多岐にわたる業務について適切に進捗管理を行い実施するものとする。</p> <p>(4) 指定管理者は、施設の管理について創意工夫のある企画や効率的な運営等により、各施設利用者の多様なニーズに応え、質の高いサービスの提供を図り、効果的・効率的な管理運営を目指すものとする。</p> <p>(5) 施設利用者や地元等からの要望等に対し、公の施設の管理運営の公益性に鑑み、公平・中立を是としてその運営にあたるものとする。</p>

施設名	新潟市こども創造センター		
管理者名	にいがた未来共同事業体	指定期間	平成25年4月1日 ~ 平成30年3月31日
担当課	福祉部 こども未来課		
所在地	新潟市中央区清五郎375番地2		
根拠法令			
設置条例	新潟市こども創造センター条例		
施設概要	敷地面積 3,024㎡, 延床面積 2,990㎡ 建物構造・主な施設内容（構成施設の内容） 鉄骨造・一部鉄筋コンクリート造4階建 1階 陶芸・美術・工作スペース, 光と音の造形スペース, 展示スペース 2階 総合活動スペース 3階 総合活動スペース・保育ルーム 4階 総合活動スペース, 憩いのスペース, ふれあい緑化スペース		

施設設置目的	
子どもに創作活動及び体験活動の機会及び場を提供することにより、子どもの自ら生きる力を伸ばし、及び共に生きる力を育むことを目的とする。	
管理・運営に関する基本理念、方針等	
1	<b>基本理念</b> (1) 市民との協働による市民主体の運営 市内の美術団体、地域の活動家、教育現場の指導者など、既に造形活動を展開されている多くの方々や子どもの健全育成や子育て支援家庭への支援に取り組む多くの方々の協力も得ながら、様々な企画を市民が一緒になって活動を支援する仕組みをつくり事業を展開する。 あわせて、様々な広報活動を積極的に行い、情報発信するとともに、市民からの情報提供を受け、より良い運営に努める。 (2) 市民の文化活動活性化に向けた運営 幼稚園・保育園・小中学校での活動や授業に活用できるプログラムの作成や様々な遊び活動などを通して、子どもの創造性や主体性を高めるような事業を展開するなど、市民の文化活動をさらに盛り上げ、継続し地域に広めていく拠点施設としての運用を図る。 (3) 周辺環境・施設との一体的な運営 立地条件のメリットを最大限活用し、施設（ハード）間の連携とともに、動植物とのふれあいに基づく学習・発見・体験・感動を創作活動に発展させるよう、創造性がさらに高まる運営（ソフト）を充実させ五感を刺激し自分の思いや考えが表現できる豊かな人間性を育むことを目指す。
2	<b>重点政策</b> (1) 子どもの「自ら生きる力」を伸ばし、「共に生きる力」を育むうえで大切な、創造性を育む創作活動や体験活動事業を実施する。 (2) 多くの市民や団体・企業などを巻き込んだ地域連携活動を行う。 (3) 幼稚園・保育園、小中学校の活動支援及び施設利用の促進を行う。 また、大学や教育関連団体等とプログラムや人材の交流を行うとともに、研究や調査活動を積極的に支援する。 (4) 市内の教育関係団体や、子ども関連施設などにおける情報発信拠点などセンター事業を行う。
3	<b>管理運営方針</b> (1) 当該業務について善良なる管理者の注意をもって実施する義務を負うものとする。 (2) 施設の設置の目的を踏まえて、各施設との適正な一体的な管理によりその効用を最大限発揮させるよう、努力するものとする。 (3) 業務全般について計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、その一元的管理方針のもとで、仕様書に示す多岐にわたる業務について適切に進捗管理を行い実施するものとする。 (4) 指定管理者は、施設の管理について創意工夫のある企画や効率的な運営等により、各施設利用者の多様なニーズに応え、質の高いサービスの提供を図り、効果的・効率的な管理運営を目指すものとする。 (5) 施設利用者や地元等からの要望等に対し、公の施設の管理運営の公益性に鑑み、公平・中立を是としてその運営にあたるものとする。

施設名	新潟市アグリパーク			
管理者名	にいがた未来共同事業体	指定期間	平成26年4月1日	～ 平成30年3月31日
担当課	農林水産部 農業特区・農村都市交流課			
所在地	新潟市南区東笠巻新田3044番地			
根拠法令				
設置条例	新潟市アグリパーク条例			
施設概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○敷地面積 約4ヘクタール</li> <li>○主な施設 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場及び畜舎</li> <li>・農業体験クラブハウス及び体験棟</li> <li>・直売所</li> <li>・レストラン</li> <li>・宿泊コテージ及び研修棟</li> <li>・食品加工支援施設</li> </ul> </li> </ul>			

施設設置目的	
市民が農業に触れ、及び親しむ場並びに農業を学ぶ場を提供することにより、地域の農業に対する理解を深め、もって郷土愛を育むことを目的として、並びに市内の生産者等に対する食品の加工等に関する技術的支援を行うことにより、農業の振興に資すること	
管理・運営に関する基本理念、方針等	
1	<p>事業理念</p> <p>(1) 地域農業振興につながる施設 本市の食や花に関する情報発信や地域独自の商品開発、提供などにより地域農業の振興を図る。</p> <p>(2) 市民に愛される食と花の施設 市民に親しまれ、地域農業に対する理解やほこりを感じられる事業を展開する。</p> <p>(3) 本市農業の先導役として、商品開発や食・花を活かしたライフスタイルの提案などを継続的に推進する。</p>
2	<p>重点政策</p> <p>(1) 全国初の本格的な教育ファームとして、子どもたちに生産・栽培から加工・販売までの農から食の一連の体験プログラムを提供し、食の豊かさ、大切さ、命の大切さを伝え、郷土愛を育むと共に豊かな感性と創造性を形成する。</p> <p>(2) 新規就農者に対し、農業の知識、技術及び技能の習得のためのカリキュラムを提供し、円滑に就農が進むよう支援する。</p> <p>(3) 農家、事業化への農業技術・加工技術の支援及び食品加工の新品の開発により6次産業化を推進する。</p>
3	<p>管理運営方針</p> <p>(1) 当該業務について善良なる管理者の注意をもって実施する義務を負うものとする。</p> <p>(2) 施設の設置の目的を踏まえて、適切な管理によりその効用を最大限発揮させるよう、努力するものとする。</p> <p>(3) 業務全般について計画立案を行い、目標及び業務計画を策定し、その一元的な管理方針のもとで、仕様書に示す多岐にわたる業務について適切に進捗管理を行い実施するものとする。</p> <p>(4) 指定管理者は、施設の管理について創意工夫のある企画や効率的な運営等により、各施設利用者の多様なニーズに応え、質の高いサービスの提供を図り、効果的・効率的な管理運営を目指すものとする。</p> <p>(5) 施設利用者や地元等からの要望等に対し、公の施設の管理運営の公益性に鑑み、公平・中立を是としてその運営にあたるものとする。</p>

要求水準・目標値(評価指標)

視点	評価項目	評価指標	いくとびあ食花3施設	食と花の交流センター	動物ふれあいセンター	こども創造センター	アグリパーク	実績	評価	評価コメント	
市民	入場者数	いくとびあ食花3施設の来場者数 :100万人以上/年	○					1,118,539人	A	指標を大きく上回った	
		アグリパーク :20万人以上/以上					○	221,219人	A	指標を大きく上回った	
		宿泊施設の稼働率稼働率 :40%以上/年					○	24.4% (コテージ24.5%、宿泊棟24.2%)	C	指標を下回った	
	団体利用	食と花の交流センター :利用団体100団体以上/年		○					281団体	A	指標を大きく上回った
		動物ふれあいセンター :利用団体270団体以上/年			○				623団体	A	指標を大きく上回った
		こども創造センター :利用団体270団体以上/年				○			510団体	A	指標を大きく上回った
	交流の拡大	交流イベント :4回以上/年	○					4回	B	指標通り	
	多彩な事業展開	食・花・こども・動物分野のコラボ事業の実施 :年20回以上/年	○					43回	A	指標を大きく上回った	
	魅力ある花とみどりの展示	・展示場での展示会 :20回以上/年 ・見本園の花の入替え :年3回以上/年		○				・展示館20回 ・見本園27回	A	指標を大きく上回った	
	食と花のプロモーション	企画イベント :10回以上/年		○				65回	A	指標を大きく上回った	
	食育の推進	教育ファームカリキュラムの受講者 :10,000人以上/年					○	16,321人 (学校9,314人、一般7,007人)	A	指標を大きく上回った	
	新規就農者支援	就農支援プログラムの受講者数 :100人以上/年					○	135人	A	指標を大きく上回った	
6次産業の推進	・食品加工支援講習会の開催 :20回以上/年 ・食品加工支援講習会の受講者 :400人以上/年					○	49回 432人	A	指標を大きく上回った		
広報の充実 ※( )はアグリパーク	・HPの情報更新 :50回以上/年(20回以上/年) ・アクセス件数 :20万回以上/年(10万回以上/年)	○				○	・HP更新92回(139回) ・アクセス件数375,669(110,415回)	A	指標を大きく上回った		
利用者の満足度	利用者アンケートで「満足」が80%以上	○				○	・いくとびあ食花 91.4% ・アグリパーク 97.7%	A	指標を大きく上回った		
業務	安心・安全の確保	・防災訓練:年2回以上実施 ・防災マニュアル及び安全管理マニュアルの作成	○				○	・いくとびあ食花 2回 ・アグリパーク 2回	B	指標通り	
	コンプライアンスの徹底	職員へのコンプライアンス研修受講 :1回以上/年	○				○	・いくとびあ食花 1回 ・アグリパーク 1回	B	指標通り	
	市内産業の貢献	・再委託する場合の市内事業者への再委託及び資材等の市内事業者(店舗)等からの調達率 :90%以上	○				○	・いくとびあ食花 92.3% ・アグリパーク 100%	A	指標を大きく上回った	
	関係団体・地域との調整	関係機関・地域との連絡調整会議の実施 :各1回以上/年		○			○	・いくとびあ食花:戦略会議、鳥屋野 湯南部連絡調整会議 ・アグリパーク:戦略会議、市教委 会議、南区地域指導農業士会会議等	B	指標を上回った	
	市民協働の推進 ※( )はアグリパーク	ボランティアの受入れ :延べ360人/年以上(1,000人/年以上)		○			○	・交流センター: 68人 ・アグリパーク: 258人	C	指標を下回った	
		市内の動物関係団体等との連携事業 :6回以上/年			○			6回	B	指標通り	
		市内の子ども創作・体験活動に関する個人および団体等との連携事業 :50回以上/年				○		176回	A	指標を大きく上回った	
	社会貢献 ※( )はアグリパーク	施設内の各種作業についての障がい者の受付 :延べ120人/年以上(200人/年以上)		○			○	・交流センター: 0人 ・アグリパーク: 0人	C	指標を下回った	
施設の稼働	年間休館日数 :12日以内/年		○			○	・交流センター: 11日 ・アグリパーク: 無休	A	指標を大きく上回った		
人材	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	○				○	適正に実施	B	指標通り	
	業務の理解度と習得度	職員の業務研修 :1人あたり2回以上/年	○				○	・いくとびあ食花:1人あたり2.15回 ・アグリパーク:1人あたり2.00回	B	指標通り	
	市内雇用の貢献度	市内住居者の雇用率 :90%以上	○				○	・いくとびあ食花: 95.7% ・アグリパーク: 86.4% (全体91.1%)	B	アグリパークでは指標を下回ったがいくとびあ食花と併せて指標を達成したのでBとする。(平成27年3月31日現在職員)	
	支援者の育成	支援者研修会の実施 :6回以上/年				○		7回	B	指標を上回った	

## 指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)

### ■ 食と花の交流センター

オープンに向けての施設・備品の整備、運営準備を可能な限り実施し、無事オープンを迎え、また、オープン後もお客様目線に立ったサービス、お客様への心を込めた接客に努めた結果、オープン当初頂戴した各種クレームは減少傾向にあり、最終的にアンケート結果から見る施設の満足度は93.5%、職員の接遇については、96.6%と高い数値となった。

施設の利用者数については、団体利用数は目標を大きく上回ったものの、ガーデン有料入場者数が伸びず、また、直売所についても想定した売上を達成することができなかった。しかしながらレストランについては、他の同形式のレストランとの差別化を図った結果、売り上げは堅調に推移している。

入場者数増、売上増を目指すべく、ガーデンの花弁類及び展示館内の各種企画展示の充実や、センター独自のイベント、体験活動、いくとびあ食花全体のイベント、いくとびあ食花内各施設と連携したイベントなど様々な企画の考案、それら広報に努めたのであるが、大きな成果をあげることはできなかった。

とは言え、夏、秋、冬に開催したイルミネーションについては、お客様から好評であり、施設の周知及び入場者数の増加に大いに貢献した。

財務に関しては、上記の通り想定入場者数減による各種売上の減少が影響し、極力経費の効率的な執行に努め、また、経費削減に努めたのであるが、予算を大幅に下回る結果となった。

ボランティア、障がい者雇用といった社会的活動については注力できず、特にボランティアについては、今後、経費の削減、市民協働での運営を実現するために可能な限り積極的に取り組んでいきたい。

### ■ 動物ふれあいセンター

季節に合わせたオリジナリティ溢れる交流イベント、コラボ事業、動物ふれあい体験プログラムなどを展開し、目標値を大きく上回る入場者数及び団体数をお迎えするとともに、86.4%の高いアンケート満足度をいただくことができた。

財務に関しては、収支計画に沿って適正に執行することができた。飼育動物の福祉及び入場者の利便性を向上させるため、飼育舎床面の滑り止め加工や車イス用スロープの設置などの工事を実施した。

業務に関して、事業仕様書に沿って新潟市保健所と連携し、97.5%(157/161頭)の犬・猫の譲渡率を達成した。

人材に関して、90%以上の市内在住者を雇用することができなかったが、25年度と比較して大きく改善された。

### ■ こども創造センター

オープン2年目となり、施設の周知も進み、本年度は特に乳幼児を連れてお客様や、昨年度を上回る団体利用のお客様により、入館者数は目標値を大きく上回る事ができた。

センター全体の運営としては、「利用者を館や企画に誘うシカケ」と「利用者が楽しみ、学び、自身を育むシカケ」と「市民との協働のシカケ」の3本のシカケを推進しつつ、職員のスキルアップにも努め、ものづくり活動、あそびの広場活動において多種多様な企画、活動、展示を実施した結果、施設に対する満足度が91.4%、職員の接遇に対する満足度が93.6%とお客様からは非常に高い評価を得た。

財務に関しては、入館者増により経費も増加するところであるが、お客様の安心・安全な施設利用、利便性を損ねることなく指定管理料の範囲内で効率的、適正に執行しつつ、運営面での様々な工夫を行い、その結果、お客様からのクレームやトラブルも減少している。

ボランティアについては登録数、述べ活動人数とも順調に伸びており、本年度は高校生や大学生など自身の研究、こども達の教育現場を将来の職業に選択する可能性のある若者も積極的に受け入れを行った。

いずれにしても、いくとびあ食花全体、とりわけ当センターの賑わいの創出、集客のため、各種企画、広報に努めつつ、お客様の利便性の向上と経費の削減を両立すべく運営の効率化を図り、予算達成を目指すものとする。

## ■ アグリパーク

オープン初年度のアグリパークは、全国で初の公的教育ファームということに加え、土・日、祝日、夏休み期間は、豊富な体験プログラムに基づく一般市民による手軽な農業・食育体験が可能ということもあり、入場者数は指標を大きく上回った。

また、全国からの視察者が相次ぎ、ホームページへのアクセス件数も指標を大きく上回り、本施設への関心の高さを示した。しかし宿泊施設の認知度が低く、要求水準を下回った。この改善策として大手旅行代理店との契約やメディアを活用して宿泊客の増加を図ることとしたい。

アグリパークの持つ役割として「教育ファーム」、「農業の6次産業化」、「就農支援」に関する実績は、小・中学校との密接な打ち合わせや時宜を得た講座開設、計画的な受講生の募集などが功を奏し、指標を上回った。

利用者の満足度も高く、さらに市民に愛される施設をめざし、工夫を重ねたい。市民協働の観点からみると、農援隊からの積極的な加勢を得たが、アグリパークの立地する地域が典型的な農村地域のため定期的な市民サポートが少なく、ボランティアの受け入れは、指標を下回った。

また、施設内の施設内の各作業については、教育、農業に関する特殊な作業のため障がい者の雇用はゼロとなった。今後、地域からのボランティアの拡大を図るとともに障がい者の雇用が可能か どうか検討してまいりたい。

## 所管課による総合評価（所見）

### ●農林水産部 農業特区・農村都市交流課

#### ○食と花の交流センター

いくとびあ食花各施設とよく連携し、交流イベントやコラボ事業を実施したことが指標を大きく上回った来場者数になったものと思われる。また、利用者アンケートでの満足度も高く、その一因として来場者に対する職員の対応が良かったものであるため、これらの取組みについて評価する。

ボランティアとの協働、障がい者への活動の場の提供については指標を下回ったが、これらの取組みは地域の活性化にもつながるので、今後、積極的な取組みを期待する。

ガーデン、花とみどりの展示館においては、様々な展示や体験、講座などの企画を行い集客に努めたことは評価するが、入園者が目標に達しなかったため、今後は来場者に喜ばれる企画の開発及び認知度を上げる取組みを行い、多くの方から入園されることを期待する。

直売所、レストランの運営については市内産の農産品のPRにつながるよう、指定管理者が積極的に関与することを期待する。

本年6月には、施設がオープンし丸1年となるので、今年度の取組みを更に発展させ、多くの方から利用していただき、満足してもらえる施設となるよう取組むことを期待する。

#### ○アグリパーク

施設を原則無休で運営したこと、体験プログラムの充実や職員の親切な接客などにより、指標を上回る来場者となったことを評価する。

食育の推進、新規就農者支援及び6次産業化の推進の取組みについても指標以上に取組んだことを評価する。

宿泊施設の利用者が指標を下回ったことから、施設での体験プログラムやサービスの充実を図り、宿泊者数を伸ばしていただいた。

食と花の交流センター同様、ボランティアとの協働、障がい者への活動の場の提供については指標を下回ったが、これらの取組みは地域の活性化にもつながるので、今後は積極的な取組みを期待する。

本年6月には、施設がオープンし丸1年となるので、今年度の取組みを更に発展させ、多くの方から利用していただ

き、満足してもらえる施設となるよう取組むことを期待する。

#### ●保健衛生部 保健所環境衛生課 (動物ふれあいセンター)

ふれあいセンターの設置目的に沿った体験事業を積極的に実施し、事業計画書に基づき適切に管理運営されている。入場者数は指標を大きく上回り、いくとびあ食花内の他施設と連携事業を展開することによって、子どもから高齢者まであらゆる方々に楽しんで学んでいただき、利用者の満足を得ている。

人材面で市内雇用の貢献度は目標を達成できなかったが、目標値までもう少しのところまで改善された点は評価する。目標達成に向け引き続き雇用を計画的に行っていただきたい。

いくとびあ食花のグランドオープンから1年が経過する。今後も各施設との連携を強化し、事業展開や管理運営に取り組んでいただきたい。

#### ●福祉部 こども未来課 (こども創造センター)

施設の設置目的に沿った事業や活動等を積極的に行い、事業計画書に基づき適切な管理運営がなされている。

その結果、ほぼ全項目において要求水準に達しており、特に昨年度と比較した入館者数及び利用団体数の大幅な増加、センター運営事業数及び関連団体・個人との連携事業数の増加、高い利用者満足度の獲得という点に関して高く評価する。それらを維持しながら、引き続き4施設や地域との連携を更に強化し、市内の情報発信拠点としての機能の強化や、市内の幼稚園・保育園・中学校・特別支援学校向けの体験学習プログラムをはじめ、各種事業展開に取り組んでいただきたい。